

ギャラリー集積地からみた地域活性化に関する研究

ー日本橋 CET 地区とニューヨーク Dumbo 地区の比較分析を通してー

宇野研究室

4107013 大川 誠治

1 研究の背景と目的

Central East Tokyo (CET) は馬喰町、日本橋、浅草橋の地域、また 2003 年より同時に同地域で行われたアートフェスティバルの名称およびその対象地域名である。当初のアートフェスティバルの目的は空きビルが増えたこの地域の活性化と街に個性を取り戻すことで、ニューヨーク、ブルックリンの Dumbo(Down Under the Manhattan Bridge Overpass)と呼ばれる地域のアートフェスティバルを見本とした。アートフェスティバルの結果 Dumbo は劇的に活性化したのに対して、CET はギャラリーが増えたものの Dumbo ほどの活性化に至っていない。そこで、CET と Dumbo の比較をすることでその理由を解明できると考え研究を始めた。

CET と Dumbo は元々倉庫が多かった。それが使われなくなり、天井高が高く、低家賃の空きビルができた。そこにアートを入れることで街の復興を試みたという点で両者は一致しているが、CET ではまだギャラリーの集積が地域活性化にむすびついていない。本論では Dumbo との比較分析を通して、どのようにすれば集積し始めたギャラリーが地域活性化に繋がるか考察し、CET に対して提案を行なうことを目的とする。

2 研究の方法

2-1. 対象の選定

ヒアリング調査の対象および現地調査の対象を図 3、図 4 に示す。対象はギャラリーが集中するエリアを中心に半径約 500m とする。



▲図 1 対象地域 (出典：google earth より)

3 ヒアリング調査

3-1. 調査項目

CET のギャラリー 17 個を対象にヒアリング調査を行った。ヒアリング調査では以下の 6 つの項目を中心に行った。①CET にギャラリーを出した経緯 ②対象の場所 / 建物を選んだ理由 ③地域や地域の団体との繋がり ④マネージメント形式について ⑤前の用途とレノベーションについて ⑥今後の展望について

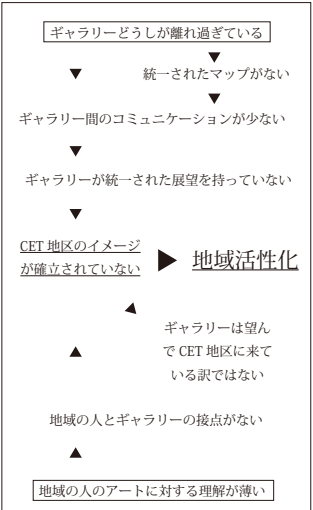
3-2. 結果 (表 1)

3-3. ギャラリー集積の経緯

2007 年の CET のアートイベント及び東京 R 不動産の働きかけにより TARO NASU を始めとする複数のギャラリーが地域に移転した。この影響が大きく、これ以降口コミや他の不動産屋の紹介でギャラリーが次々と移転して来た。ギャラリーとしてのキャリアが長く、有名な TARO NASU と Radi-um が来たことの影響も大きいと予想される。(図3) CET 地域を選んだ理由として全てのギャラリーが家賃の安さと空間の広さを挙げており、ほとんどが地価の高い場所からの移転であった。

3-4. 問題点

ギャラリーが挙げた問題点の多くに共通点が見られた。それらと考察として自ら挙げた問題点の関係を図 2 に示す。問題の因果関係を整理することで、ギャラリー間の距離が遠すぎるという問題とアートに対する理解度が低いという問題を解決すれば CET 地区のギャラリー集積地としてのイメージが確立され、地域の活性化に繋がることがわかった。



▲図 2 問題点の関係

CET	前の用途	きっかけ	年	営業形態	地域との繋がり	場所の魅力	今後の展望
ギャラリー港屋	繊維問屋・倉庫	友人の紹介	1986	全店で企画展	なし	家賃の安さ	ギャラリー間のコミュニケーション 増
マキイマサルファインアーツ	新築	通やすがりに発見	2005.7	企画ギャラリー	なし	家賃の安さ、下町	カフェなど 増
P2Q-pilot program gallery	倉庫	CET2007	2007.2	企画展	近所の人と仲がよい	空間の広さ、家賃の安さ	画が好きな方になれたい
space355	市団屋	東京R不動産	2007.7	企画ギャラリー	町内会	空間の広さ、家賃の安さ	飲食、物販 増
クンストハウ 東京	事務所	不動産屋	2007.7	企画展	なし	空間の広さ、家賃の安さ、東京駅に近い	特になし
Radi-um	繊維問屋倉庫	なし	2008.3	企画ギャラリー	なし	空間の広さ、家賃の安さ、東京駅に近い	特になし
noya op	倉庫	東京R不動産	2008.5	アトリエ/ショップ	材料などを安く購入	空間の広さ、家賃の安さ	元気のある面白い人 増
GASHI	事務所	口コミ	2008.6	企画ギャラリー	なし	空間の広さ、家賃の安さ、近くはギャラリーが密集	特になし
TARO NASU	繊維問屋倉庫	東京R不動産	2008.6	個人経営	なし	空間の広さ、家賃の安さ	エリア全体のイメージの向上
Lower Akihabara	工場	近くの不動産屋の紹介	2009.1	企画ギャラリー・百貨店への動線あり	なし	空間の広さ／面白さ、家賃の安さ	ギャラリー 増
gallery α M	倉庫	口コミ	2009.5	武蔵野美術大学が経営	なし	空間の広さ、家賃の安さ	おしゃれなお店 増
ZENSHI	事務所	東京R不動産	2009.6	企画展(シェア)	なし	空間の広さ、家賃の安さ	近くの会社員に立ち寄って欲しい
FOIL GALLERY	繊維問屋倉庫	2009.9	出版社が経営	なし	空間の広さ、家賃の安さ	近所の会社員に立ち寄って欲しい	アートについての議論 増
Gallery Terra Tokyo	事務所	雑誌・不動産屋	2010.3	企画ギャラリー	近所の人と仲がよい	空間の広さ、家賃の安さ、川が近い、画する道幅が広い	アトリエタイプな人 増
Maki Fine Arts	衣類系問屋	佐藤さんの呼びかけ	2010.6	企画ギャラリー	なし	空間の広さ、家賃の安さ	ギャラリー 増
Tobin Ohashi Gallery	問屋	不動産屋の紹介	2010.9	企画ギャラリー	なし	空間の広さ、家賃の安さ	色々な人が来る所へ
MORTUS FORT	倉庫	近所で移転	2010.9	企画ギャラリー	なし	空間の広さ、家賃の安さ	アートについての議論 増

4 比較分析

4-1. ギャラリーの距離関係の比較分析

CET のギャラリーは駅から近いが、ギャラリー間の距離が離れている。一方 Dumbo のギャラリーは駅から遠いが、短距離で集積している。(表 2)

Dumbo はもともとほとんどの土地が同じ所有者で、再開発が計画的に行われたため、アートコンプレックスにほとんどのギャラリーが集積している。CET のギャラリーがそれぞれ離れている理由としては、ギャラリーが集積するのを感じていないことやギャラリーが入ることのできる空き家のまばらさが考えられる。

4-2. 街並におけるアートの可視性の比較分析

図 3、図 4 に示す範囲において、街路上にあるアートだと認識できる物とアートがあることを示す物を収集し、以下の 5 つの要素に分類した。(表 3) ①ギャラリーのファサード ②ギャラリーの看板 ③壁面アート ④ギャラリーの地図看板 ⑤オブジェ

4-2-1. CET

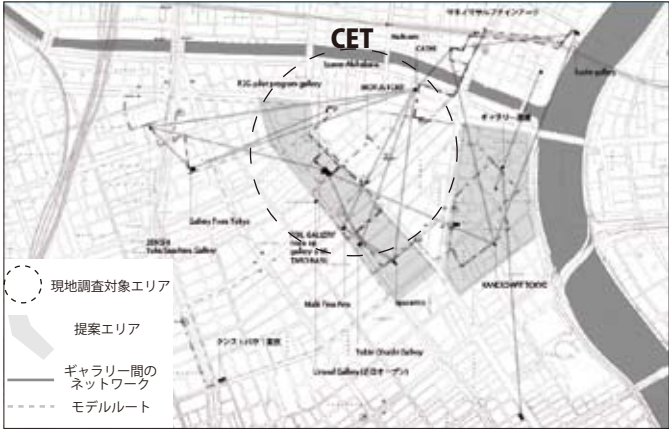
CET は街に③～⑤の要素が見られなかった。また、ギャラリーの数は多いが、それぞれ離れているので街中においてアートを認識しにくい。

4-2-2. Dumbo

Dumbo では 10 のギャラリーが同じ建物に入っているため①と②の要素は少ない。しかし、③～⑤の要素が多い為、全体の要素数では CET を上回っており、アートの可視性は高い。

4-3. モデルルートとの照らし合わせの比較分析

図 3、図 4 の点線は最寄りの 2 つのギャラリー間、ギャラリーと駅間のモデルルートである。CET では線があまり重なっていないのに対して、Dumbo ではルートが集中



▲図 3 CET 地区のネットワークと提案

脚注：1) 空間は調査中、本論で結果を示す。
参考文献：1) ケヴィン・リンチ(著)、丹下健三(翻訳)「都市のイメージ」初版 1988 年(新装版：岩波書店、2007 年)
2) CET(編)「東京 R 計画 - RE-WAYFIND TOKYO」晶文社 2004 年
3) CET パンフレット 2003-2010(http://www.central-easttokyo.com/)
4) Dumbo Arts Festival パンフレット 2010 (http://dumboartsfestival.com/)

▼表 2 ギャラリー間の距離

CET	駅までの距離	ギャラリー間の距離
FOIL GALLERY	99	5
noya op	99	5
gallery α M	99	5
TARO NASU	112	22
GASHI	98	6
マキイマサルファインアーツ	74	167
lucite gallery	263	379
ギャラリー港屋	200	239
Radi-um	104	6
ZENSHI	91	179
クンストハウ 東京	212	388
ジュンサブロー館	74	388
MORTUS FORT	89	148
P2Q-pilot program gallery	163	65
space355	99	111
Maki Fine Arts	132	76
Tobin Ohashi Gallery	115	76
Lower Akihabara	291	156
Gallery Terra Tokyo	186	178
KANEKO ART TOKYO	140	239
平均	137	143
Dumbo	駅までの距離	ギャラリー間の距離
DUMBO Art Center	473	15
Smack Mellon	483	15
Mighty Tanaka	222	105
Jan Larsen Art	242	87
PONERHOUSE ARENA	507	140
SrS Gallery	319	10
AIR Gallery	319	10
Amos Eno Gallery	319	10
Byrd Hoffman Watermill Found	319	10
Gloria Kennedy Gallery	319	10
Henry Gregg Gallery	319	10
Klompching Gallery	319	10
Umbrage Gallery	319	10
Wessel + O'connor Fine Art	319	10
Gallery Spring	273	159
平均	338	87

単位：m

しており、街の中心部に向かう際に必ず通る位置にアートを現す要素があり (図 4)、他の目的で来た人でも街にギャラリーがあることを認識しやすい。

▼表 3 街に見られるアートの分類

	①ギャラリーのファサード	②ギャラリーの看板	③壁面アート	④ギャラリーの地図看板	⑤オブジェ
CET	中が見えるもの：8 個	7 個			
Dumbo	中が見えるもの：2 個	3 個	3 個	3 個	5 個

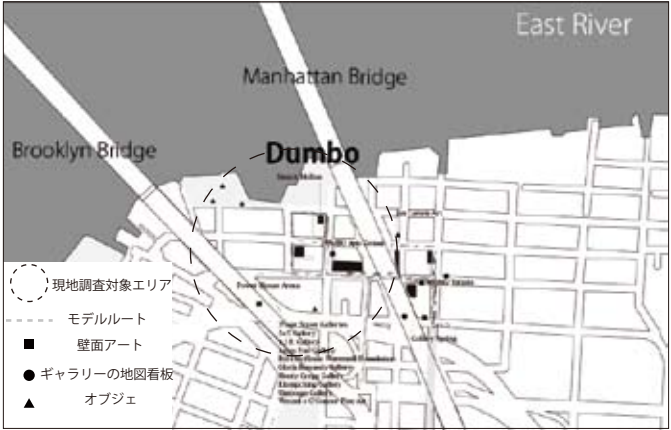
5 総括

ヒアリング調査では以下の 4 点が明らかになった。①ほとんどのギャラリーが CET 地区に移転した理由は広い空間と家賃の安さであること。②「CET 地区のギャラリー」というコミュニティ意識は薄いこと。③「東京のギャラリー」や「日本のアートの活性化」という表現が目立ち、自分のいる地区に特別な関心を持っていないこと。④ほとんどのギャラリーは「作品を買ってくれるような人はどこにギャラリーがあっても来る」という理由から過度な集積は必要ない考えていること。

しかし、④に関しては比較分析より、ギャラリーの来客数を増やす為には、ギャラリー間の距離が近い方が効果的なのは明らかである。よって、東京のアートシーンにとってもギャラリーが集積することは有益であり、これから都市開発側はこのことをギャラリー側に訴えていく必要がある。また、その際にはアートの可視性を考慮した計画をするべきである。

6 提言

まず、ギャラリー間のコミュニケーションをとりやすくし、CET のギャラリー集積地としてのイメージを明確にし、より多くの人にとって訪れやすくするべきであると考え。そのために、現在のギャラリーの分布を考慮して、コンテンポラリーアートのギャラリーと古いものを扱う画廊をそれぞれ図 3 に示すエリアに集積させることを提案する。



▲図 4 Dumbo 地区のギャラリー